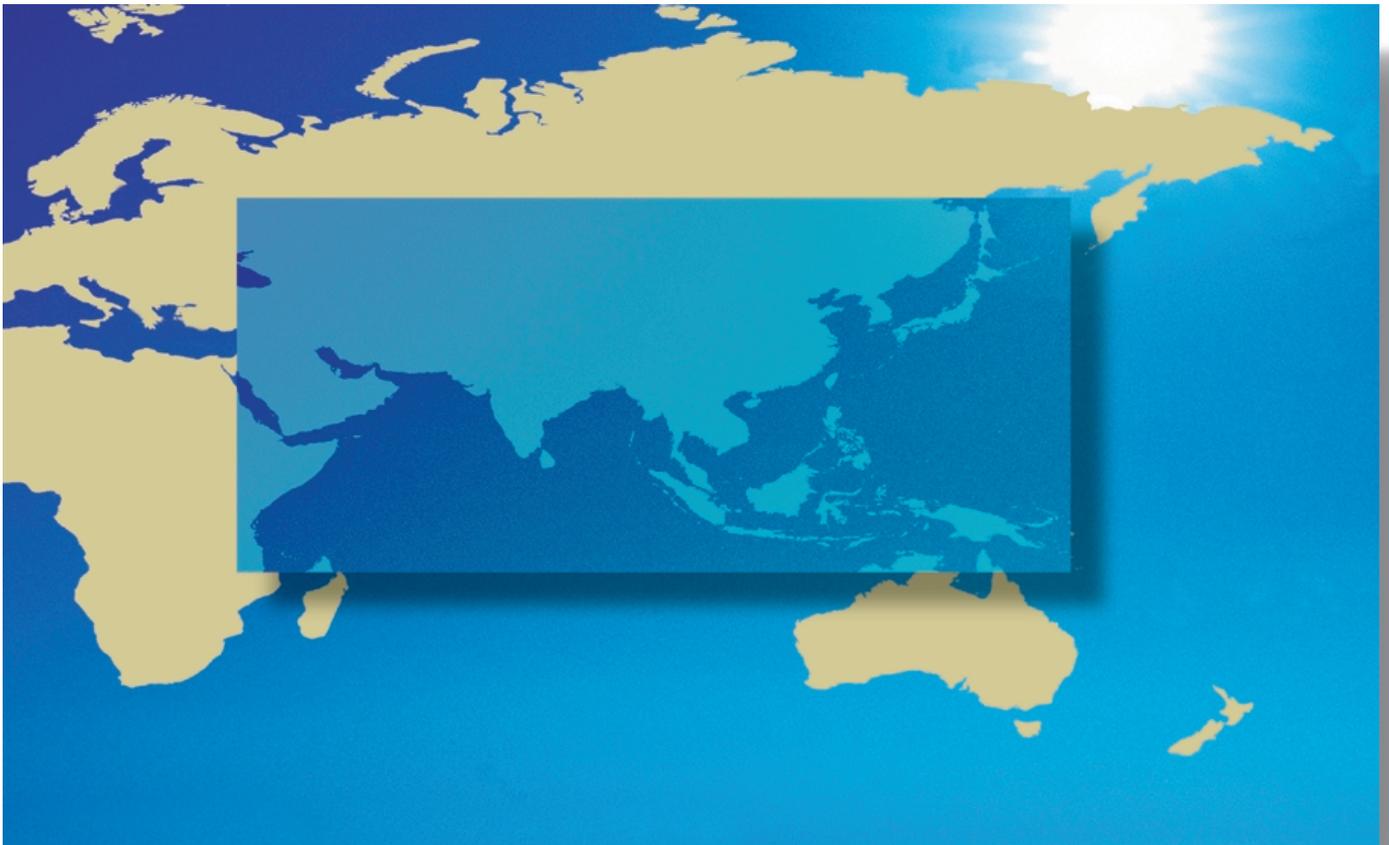


海洋安全保障情報月報

2009年2月号



目次

2009年2月の主要事象

1. 情報要約

- 1.1 治安
- 1.2 軍事
- 1.3 外交・国際関係
- 1.4 海運・資源・環境・その他

2. 情報分析

アジアにおける海賊及び武装強盗の特徴～ ReCAAP2008年調査報告書から～

別添1：2009年におけるアデン湾・ソマリア沖のハイジャック事案の状況（3月10日現在）

別添2：2008年におけるアデン湾・ソマリア沖のハイジャック事案中、2009年1月以降の解放状況（3月10日現在）

本月報は、公表された情報を執筆者が分析・評価し要約・作成したものであり、情報源を括弧書きで表記すると共にインターネットによるリンク先を掲載した。

発行者：秋山昌廣

執筆者：秋元一峰、犬塚勤、今泉武久、上野英詞、國見昌宏、小谷哲男、友森武久、高田祐子

本書の無断掲載、複写、複製を禁じます。

2009年2月の主要事象

治安：トルコは17日、海軍のフリゲート、TGC *Giresun* をソマリア沖に派遣した。派遣期間は交代艦に引き継ぐまでの4カ月間で、CTF-151に参加する。

ウクライナ対外情報局長官は、ソマリアの海賊にハイジャックされていた、ウクライナの実業家のローロー船（ベリーズ籍船）、MV *Faina* が5日に解放された、と語った。身代金は320万米ドルで、65人の海賊はこれを分配して、該船から退去した。

ソマリアの海賊は8日、中国の天津遠洋漁業公司所属のマグロ漁船、*Tian Yu.8*を解放した。中国政府の発表によれば、該船は中国ソマリア派遣艦隊の保護下にある。24人の乗組員（船長は日本人）は無事という。

オランダ籍船襲撃容疑でデンマーク海軍が1月2日に拘束した5人の海賊容疑者は10日、オランダに引き渡された。5人の容疑者は、バーレーンから軍用機でオランダ国内に移送された。

米海軍は、海賊対処のために、拘束した海賊容疑者を一時的に拘置しておくための船を初めて配備することになった。USNS *Lewis and Clark* が、最大26人の海賊容疑者を拘置できるように改装され、一時的に海賊容疑者を拘置するセンターになる。

米海軍誘導ミサイル巡洋艦、USS *Vella Gulf* は11日、アデン湾で海賊容疑者7人を拘束した。CTF-151が海賊容疑者を拘束するのは初めてである。USS *Vella Gulf* (CG 72) は12日にも、海賊容疑者9人を拘束した。

シンガポールのテオ・チーヒエン国防相は12日、2機のヘリを搭載した揚陸艦（LST）を、3カ月の期間でアデン湾に派遣する、と議会に通告した。LSTはCTF-151と協同し、アデン湾の海上交通を護る。

ソマリアの海賊は12日、日本のイイノマリサービスの関係船でパナマ籍船のケミカル・タンカー、MT *Chemstar Venus* (1万9,455DWT) を解放した。

ロシア海軍報道官によれば、ロシア海軍の原子力ミサイル巡洋艦、*Pyotr Veliky* は12日、3隻の海賊船と10人のソマリア人海賊容疑者を拘束した。イエメン沿岸警備隊は18日、ロシア海軍戦闘艦から10人のソマリア人海賊容疑者を引き取った。

NATOのスケップフェル事務総長は19日、NATO国防相会議はNATOが再度ソマリア沖で海賊対処作戦を実施することに合意した、と発表した。事務総長は、今後数か月以内に、常設NATO海洋グループ（Standing NATO Maritime Group）をソマリア沖に派遣する、と語った。

スイス政府は25日、アデン湾通航の自国籍船を護衛するため、最大30人の武装兵士を派遣することを決定した。

EU当局は25日、ウクライナ代表団に対して、EU艦隊に参加するならば、派遣艦の運用に関わる全ての経費は自前で負担しなければならないと通告したことを明らかにした。ウクライナのユーシチェンコ大統領は、EU艦隊の枠内で海賊対処に参加する意向を明らかにしている。

ノルウェー政府は27日、EUがソマリア沖で実施している海賊対処作戦、EU NAVFOR ATALANTAに、*Nansen* 級フリゲート1隻を派遣することを決定した。フリゲートは8月にソマリア沖に展開予定である。

インド政府は28日、海洋・沿岸治安体制の抜本的な見直しを発表した。これは、11.26ムンバイ・テロの教訓を踏まえたものである。

ReCAAP 情報共有センター (ISC) は 1 月下旬、2008 年におけるアジアで発生した海賊行為と船舶に対する武装強盗事案に関する年次報告書を公表した。2.情報分析では、ReCAAP 報告書を取り上げた。

軍事：キルギスのバキーエフ大統領は 20 日、マナスの米空軍基地の閉鎖を決めた、マナス基地貸与協定を廃棄する法案に署名した。キルギス外務省は 20 日、米国に対して、マナス空軍基地からの撤退を 180 日以内に終えるよう、正式に通告した。

米シンクタンク「全米科学者連盟」(FAS) は 3 日、中国の攻撃型潜水艦隊は 2008 年に 12 回の哨戒活動を実施したが、これは 2007 年の 2 倍である、ことを明らかにした。年間 12 回の哨戒活動は、過去最多である。

インド海軍のメタ司令官は 18 日、2011 年までに国産空母 1 番艦を配備することになろう、と語った。メタ司令官によれば、満載排水量 4 万トンの国産空母は 3 年前からコーチンの造船所で建造作業が進められているが、2 月 28 日に起工式が行われる。

イラン海軍のサヤリ司令官は 20 日、イランは国際海域で強力な海軍力のプレゼンスを確立するため、海軍戦闘艦の活動を領海内に止めるという自主規制を撤廃した、と語った。

米海軍の原子力空母、USS *Dwight D. Eisenhower* は 21 日、バージニア州ノーホーク海軍基地を出港し、哨戒活動を実施するために「アフリカの角」海域に向かった。

外交・国際関係：フィリピン議会両院は 17 日、スカーバラ礁とカラヤン諸島を「島の制度」とした、領海確定法案を承認した。アロヨ大統領は 3 月 12 日、この法案に署名した。

海運・資源・環境・その他：中ロ両国は 17 日、中国がシベリアの油田から石油供給を受け、その見返りにロシアの石油会社とパイプライン会社に借款を供与する、総額 250 億米ドルの協定に調印した。

ロシア初の LNG プラントの稼働式典は 18 日、ロシアのメドベージェフ大統領と麻生太郎首相が出席して、サハリン (樺太) のプリゴロドノエで行われた。プラントはサハリン II プロジェクトの一部で、年間 960 万トンの生産能力を持ち、アジア太平洋地域への主要なエネルギー供給源となる。

知識経済省が 25 日に明らかにしたところによれば、韓国政府は、今後 10 年間、領海内でのガス田探査を活発化させる。

1. 情報要約

1.1 治安

2月1日「サウジのタンカー乗組員、ハイジャックの様子を語る」(Sunday Mail, February 1, 2009)

ソマリアの海賊は1月9日、サウジの大型タンカー（リベリア籍船）、MT *Sirius Star* (31万9,430DWT) を解放した。身代金は300万米ドルといわれる。英国人の機関員は、エンジンルームに隠し持ったデジタルカメラとラップトップPCにハイジャック時の様子やその後の状況を記録していた。また、彼は、トイレの天井に隠していた携帯ラジオでBBC World Newsも聞いていた。以下はその主な内容と写真である。

- (1) ハイジャック時、該船は220万バレルの原油を積んでいた。原油の価値は1億米ドル相当で、船と合わせれば、3億米ドル相当になった。そのため、乾舷が低くなっており、海賊が持っていた12フィートの梯子（写真左参照）を使って乗り込むのはそれほど困難ではなかった。
- (2) 彼らが梯子をかけて舷側から乗り込んできた時、我々にできることは放水しかなかったが、彼らがカラシニコフ銃で重武装しているのが分かって、抵抗を止めた。彼らは数語の英単語しか話せなかったが、金、電話あるいはPCを欲しがり、また船から持ち運べる物を探し回った。彼らは、サンダルしか履いておらず、作業靴を欲しがった。彼らは光り物も欲しがり、私から奪った物はメガネケースだった。
- (3) 彼らは常にチャット（興奮剤）を嚙んでおり、我々は彼らの精神状態を心配した。彼らは船上で2度、カラシニコフを発射し、1度は仲間の1人を誤って撃ち、またもう1度は救命用浮き輪を海に投げ込み、それを撃った。
- (4) 解放前日と当日の様子について、彼は日記に以下のように記している。「0500 起床。0630 乗組員全員デッキに集合。0805 双発機1機が低空で飛来。パラシュート付きカプセルを海に投下。カプセルには身代金の半分が入っている。2人の海賊がそれをピックアップし、船に引き上げた。（写真右参照）その後、我々全員は船内に入った。1410 双発機が飛来し、残りの身代金を投下。1420 カプセルを船上に引き上げた。1600 海賊は依然として船内を物色中。1630 海賊の内、17人がボートで離船。1900 ボートの1隻が沈没し、4人が行方不明になったことを知らされる。そのため、残りの海賊はその夜は船内に留まる。」「翌日、0400 頃起床。0534 に最後の海賊が離船。0536 航行開始準備。0642 航行開始。米軍ヘリ飛来、解放祝福。」

Source: Sunday Mail, February 1, 2009
<http://www.sundaymail.co.uk/news/scottish-news/2009/02/01/hostage-s-secret-pictures-of-2m-ransom-drop-on-ship-hijacked-by-pirates-78057-21088889/>

2月3日「ソマリアの海賊、トルコ船解放」(Maritime Global Net, February 3, 2009)

ソマリアの海賊は3日、トルコの海運会社用船でアンティグア・バーブーダ籍船の貨物船、MV *Bosphorus Prodigy* (3,062DWT) を解放した。該船は2008年12月16日にアデン湾でハイジャックされ、プントランド自治区の沿岸に係留されていた。

該船の乗組員は8人のウクライナ人と3人のトルコ人で、ウクライナ外務省は3日、解放を確認した。(RIA Novosti, February 3, 2009)

2月5日「トルコ、ソマリア沖に戦闘艦派遣へ」(Trade Winds, February 6, 2009)

トルコ政府は5日、ソマリア沖に海軍戦闘艦を派遣するために、議会に承認を求めた。トルコはNATO 派遣艦隊にフリゲート1隻を派遣していたが、2008年12月のNATO 任務終了後、本国に帰還していた。2008年11月と12月の2カ月間で、トルコの海運会社の船舶がトルコ籍船1隻を含め3隻ハイジャックされ、2月初めまでに全てが解放された。

【関連記事1】

「トルコ国会、アデン湾への海軍戦闘艦派遣を承認」(AFP, February 10, 2009)

トルコ国会は10日、ソマリア海賊対策のためにアデン湾沖に海軍戦闘艦を派遣することを承認した。トルコの国内法では、海外の軍事行動に部隊を派遣する場合は、国会の承認が必要である。派遣期間は1年間で、フリゲート1隻が派遣されることになっているが、2月末までには派遣準備が整うと見られる。ババジャン (Ali Babacan) 外相は、トルコの任務は単独で遂行するのではなく、多国籍海軍部隊の一員として行動する、と語っている。トルコ政府によれば、派遣フリゲートの任務は、ソマリア沖の哨戒、商船の護衛、必要な状況下での武力の行使による海賊船の停船・拿捕、及び必要

な場合の海賊容疑者の拘束などとなろう。フリゲートの乗組員は、陸上での海賊追跡作戦には参加しない。

【関連記事 2】

「トルコ海軍フリゲート、ソマリア沖に向けて出港」(Hurriyet Daily News, February 19, 2009)

トルコ海軍のフリゲート、TGC *Giresun* は 17 日、地中海に面したアカズ (Aksaz) 海軍基地から、ソマリア沖に向けて出港した。TGC *Giresun* は、263 人の兵員と 2 機のヘリを搭載し、4~5 日以内にソマリア沖に到着し、2 月 25 日から任務を開始する。派遣期間は交代艦に引き継ぐまでの 4 カ月間で、CTF-151 に参加する。トルコ海軍は、2008 年 12 月に任務を終えた NATO 艦隊にも、フリゲートを派遣していた。

2 月 5 日「ソマリアの海賊、ウクライナ船を解放」(RIA Novosti, February 5, 2009)

ウクライナ対外情報局長官は、ソマリアの海賊にハイジャックされていた、ウクライナの海運会社のローロー船 (ベリーズ籍船)、MV *Faina* が 5 日に解放された、と語った。身代金は 320 万米ドルで、65 人の海賊はこれを分配して、該船から退去した。該船の乗組員はウクライナ人 17 人、ロシア人 3 人、ラトビア人 1 人の計 21 人であったが、ロシア人の船長は 2008 年 9 月 25 日のハイジャック直後、心臓麻痺で死亡した。情報局長官によれば、米海軍の戦闘艦が補給のために該船の側におり、6 日には航行を開始し、ケニアのモンバサ港に向かう。(モンバサ港には 2 月 12 日に入港した。)

中部ソマリアのハーラデーレに到着した海賊の 1 人は、身代金はパラシュートで投下された後、海賊は現金を勘定した後、数グループに分かれて、小型ボートで荒れる海を航行した、と語った。ウクライナの船主によれば、該船の近くで 2 隻の米海軍戦闘艦の要員は、海賊が該船を離れるに当たり、積荷の武器を持ち出さないよう、監視した (該船には、ケニア向けとされる、33 両のロシア製 T-33 戦車とその他の武器が積まれている)。しかし、米海軍の要員は、依然拘束されている他の人質に危害が及ぶことを考慮して、離船する海賊に対して何もしなかった。(Gulf Daily News, February 6, 2009)

身代金の空中投下

<http://www.marinelog.com/DOCS/NEWSMMIX/2009feb00052.html>

【関連記事】

「米海軍、ウクライナ船に補給」(Navy News Stand, February 6, 2009)

米海軍の駆逐艦、USS Mason (DDG 87) と外洋タグ、USNS Catawba (T-ATF 168) は、MV Faina に医療支援、食糧、水、燃料などを補給した。米海軍は、9月25日のハイジャック以来、該船を視認できる位置から24時間態勢で監視してきた。

Source: Left: The U.S. Navy fleet ocean tug USNS Catawba (T-ATF 168) provides fuel and fresh water to MV Faina following its release by Somali pirates February 5.
http://www.navy.mil/list_single.asp?id=68586

Right: The Ukrainian cargo ship MV Faina, is watched by local people as it arrives at the Kenyan port of Mombasa, February 12, 2009.
<http://www.washingtonpost.com/wp-dyn/content/article/2009/02/12/AR2009021201795.html>

2月8日「ソマリアの海賊、中国漁船解放」(Maritime Global Net, February 9, 2009)

ソマリアの海賊は8日、中国の天津遠洋漁業公司所属のマグロ漁船、*Tian Yu.8*を解放した。中国政府の発表によれば、該船は中国ソマリア派遣艦隊の保護下にある。24人の乗組員(船長は日本人)は無事という。身代金は空中投下されたとの報道もある。ハイジャックした海賊は、該船は不法操業船で、53トンのマグロ、25トンのロブスター、35トンのフカヒレを現地で不法に売り捌いており、また船内から象牙も発見された、と非難している。

2月10日「デンマーク、海賊容疑者をオランダに引き渡し」(Shiptalk, February 12, 2009)

オランダ籍船襲撃容疑でデンマーク海軍が1月2日に拘束した5人の海賊容疑者は10日、オランダに引き渡された。5人の容疑者は、バーレーンから軍用機でオランダ国内に移送された。容疑が認められれば、グループのリーダーは恐らく最高懲役12年、その他の者は最高懲役9年を科されることになる。これは、オランダがソマリアの海賊容疑者を裁判にかける最初のケースとなる。既に、フランスは、2008年4月にフランスのヨットのハイジャック事案で拘束した12人の容疑者をフランス国内で投獄している。

2月10日「米海軍、貨物船を海賊容疑者拘置用に改装」(Stars and Stripes, European edition, February 10, 2009)

米海軍は、海賊対処のために、拘束した海賊容疑者を一時的に拘置しておくための船を初めて配備することになった。USNS *Lewis and Clark*は通常、貨物や弾薬輸送に使われているが、最大26人の海賊容疑者を拘置できるように改装された。米海軍の海賊対処は、これまで海賊容疑者を拘束する

ことを認められていなかったが、拘置用艦船の配備は政策の転換を意味する。米 국무省は1月半ば、ケニアとの間で協定を結び、これによって米海軍と多国籍海軍が海賊容疑者を拘束し、彼らを起訴するためにケニアに引き渡すことになった。USNS *Lewis and Clark* は CTF-151 の洋上基地として配備され、同艦搭載の SH-60 ヘリの発進基地になると共に、一時的に海賊容疑者を拘置するセンターになる。

USNS *Lewis and Clark* (満載排水量 4 万 1,000 トン)

http://3.bp.blogspot.com/_E-QOnTGFX_o/SZDO8Apgv_I/AAAAAAAAAGhs/CVrXDqB5QjA/s1600-h/USNS_Lewis_and_Clark_TAKE-1.jpg

2月11日「米海軍、初めて海賊容疑者を拘束」(Navy News Stand, February 11, 2009)

米海軍誘導ミサイル巡洋艦、USS *Vella Gulf* (CG 72) は11日、アデン湾で海賊容疑者7人を拘束した。USS *Vella Gulf* は2月4日からCTF-151の旗艦として対海賊哨戒活動を行っており、CTF-151が海賊容疑者を拘束するのは初めてである。マーシャル諸島籍船、MV *Polaris* は11日午後、小型高速ボートの乗った7人の海賊が梯子を使って該船に乗り込もうとしている、との救難信号を近傍の全ての艦船に発した。該船の乗組員は、乗り込まれる前に梯子を取り外した。付近にいたUSS *Vella Gulf* は、通報があったのと同じ小型高速ボートを停船させ、同艦の「臨検・立ち入り・捜索・拿捕」(visit, board, search and seizure: VBSS) チームが同意を得て立ち入り、幾つかの武器を発見した。MV *Polaris* の乗組員が現場で容疑者を襲撃した海賊と確認した後、海賊容疑者はUSS *Vella Gulf* に乗せられた。海賊容疑者は、一時的な海賊容疑者拘置センターである、USNS *Lewis and Clark* に移送されるまで、同艦に拘置される。

備考：VBSS チームには、米沿岸警備隊から8人編成の法執行分遣隊、LEDET405がCTF-151の米艦、USS *Vella Gulf* (CG 72) とUSS *Mahan* (DDG 72) に派遣されている。CTF-151のVBSS チームは、沿岸警備隊と海軍の要員によって構成されている。LEDET405の指揮官は、「我々の任務は、海軍のVBSS チームを支援し、訓練することである。LEDETは、長年にわたる経験を有しており、これまで数百回に及ぶ乗り込みを安全に実施してきた。」と語っている。(USCG News Service, February 13, 2009)

Visit, board, search and seizure team members (VBSS) in a rigid-hulled inflatable boat (RHIB) from the guided-missile cruiser USS Vella Gulf (CG 72) close in to apprehend suspected pirates.

Sailors aboard the guided-missile cruiser USS Vella Gulf (CG 72) conduct bridge operations while suspected pirates are being apprehended by the ship's visit, board, search and seizure team (VBSS) .
Source: http://www.navy.mil/view_single.asp?id=68749

備考：上の写真の左の装置は、長距離音響装置 (Long Range Acoustic Device: Lrad) である。この装置は、2000年に米駆逐艦、USS *Cole* がイエメン沖でテロ攻撃を受けた後、米軍によって開発された音響装置で、最大1キロの範囲で150デシベルの指向性の高い大音響を発する装置である。この装置は、2005年11月のソマリア沖での米客船、*Seabourn Spirit* に対する海賊襲撃事案で初めて使用された。(OPRF 海洋安全保障月報 2005年11月号特集参照)。2009)

2月11日「ソマリア海賊の実態—EU艦隊司令部幹部談」(BBC News, February 11, 2009)

EU艦隊司令部作戦部長、ノースウッド英海軍准将 (Cdr Gerry Northwood) は、BBCの取材に対して、ソマリアの海賊の実態について、要旨以下のように語った。

- ① 各国海軍の哨戒活動の強化によって、ハイジャックの成功率は低下し、2009年になってハイジャック事案も減少している。しかし、海賊は新たな襲撃を始める可能性がある。海賊が拘留していたハイジャック船は一時最大15~16隻であったが、現在は7隻 (注：未解放の3隻と2009年に

ハイジャックされた 4 隻) に減少している。このことは、拘留スペースが空き、海賊に余力がでたことを示唆している。

- ② 商船が海賊に襲撃された場合の救出の可能性については、該船のブリッジから視認できる距離で海賊を発見した場合、全てが終わるまで 10 分余りである。もし該船が海賊の乗り込みを阻止するためにバリケードを築いたり、居住区に立て籠もったりして、30～40 分の時間を稼ぐことができれば、各国海軍の戦闘艦、搭載ヘリあるいは洋上哨戒機が現場海域に駆けつけ、支援できる可能性が非常に高くなる。
- ③ 商船が海賊に襲撃された場合、該船の船長は通常、救難信号を発信する時間があり、この信号は、ドバイにある英海軍の情報収集機関 (the UK Maritime Trade Office: UKMTO) でキャッチされ、各国海軍の戦闘艦に通報される。しかしながら、該船がハイジャックされてしまえば、戦闘艦にできることは多くない。海賊は、時には数か月にも及ぶ解放交渉の間、人質とした乗組員や積荷は大切に扱う。
- ④ ソマリアの海賊の襲撃方法については、北部から南部まで多様である。アデン湾に面したプントランド自治区を根拠地とする海賊は、目標船への乗り込みに梯子を使うことを好む。海賊の使う小型ボートでは、梯子が先端から 3～4 フィートはみ出している。また、ボートには防水シートが備えてあり、その下に、数人の海賊が隠れていたり、また AK-47 やロケット推進擲弾筒などの武器が隠されている。一方、ソマリア東岸のホビョウを根拠地とする海賊は、フック付きのロープを好む。
- ⑤ 海賊は、洋上でチャット (興奮剤) を嘔みながら一夜を明かし、未明か早朝に目標船に接近する。通常、海賊は目標船の背後から左舷に近づき、乗り込みのために乾舷が最も低くなっている箇所を選ぶ。海賊は目標船からの高压放水や有刺鉄線などの非致死性手段で阻止されることもあるが、彼らはしばしば、強襲ライフルやロケット推進擲弾筒を無差別に発砲しながら、目標船に乗り込もうとする。これで、多くの死者が出ないのが不思議である。

2 月 12 日「シンガポール、アデン湾に揚陸艦派遣へ」(Channel News Asia, February 12, 2009)

シンガポールのテオ・チーヒエン国防相は 12 日、2 機のヘリを搭載した揚陸艦 (LST) を、3 カ月の期間でアデン湾に派遣する、と議会に通告した。LST は CTF-151 と協同し、アデン湾の海上交通を護る。LST は、必要な改装を施して、派遣される。国防相は、派遣の理由として、シンガポールが海運国であり、シーレーン防衛のための国際的努力を支援すること、そして海賊に対する国際社会の懸念を共有することを挙げた。国防相は、世界の主要なシーレーンにおいて自国船舶を護衛することはどの国にも不可能であり、全ての国はシーレーンの安全を維持するために国際的な協力を依存しなければならず、従って国際社会は果たすべき役割を持っている、と強調した。

2 月 12 日「米海軍、海賊容疑者 9 人を拘束」(AP, February 13, 2009)

米海軍誘導ミサイル巡洋艦、CTF-151 旗艦、USS *Vella Gulf* (CG 72) は 12 日、アデン湾で、インド籍船、MV *Premdivya* から海賊に発砲され、乗り込まれとしているとの通報受け、襲撃を阻止し、海賊容疑者 9 人を拘束した。これは 11 日の 7 人に次いで、2 度目である。巡洋艦から発進したヘリは、逃亡する海賊の小型高速ボートに 2 度の警告射撃を行った。ボートは捜索を受け、ロケット推進擲弾筒を含む武器などが押収された。9 人の容疑者は、USNS *Lewis and Clark* に移送された。以下の写真はその時の様子である。

Source: AP, February 13, 2009

<http://www.google.com/hostednews/ap/article/ALeqM5gSXyAok3YrJTZLKD31SAjC9pfvkgD96A74KG0>

【関連記事】

「海賊容疑者、調査の上、処分決定」(American Forces Press Service, February 13, 2009)

USNS *Lewis and Clark* に収容された 16 人の海賊容疑者の処分について、米国防省報道官は 13 日、彼らは適切かつ人道的に扱われているとした上で、今後の処分について、以下のように語った。「現在、証拠集めが行われており、彼らはそれまで艦上に拘束される。CTF-151 の司令官は、彼らをケニアに引き渡すか、あるいは彼らの一部、または全員を釈放するかどうかを決定する権限を有する。」米国は 1 月 27 日、ケニアとの間に、海賊容疑者を起訴のためにケニアに引き渡す協定を結んでいる。

2 月 12 日「スペイン海軍フリゲート、海賊の襲撃阻止」(EU Business, February 12, 2009)

スペイン海軍フリゲート、SPS *Victoria* は 12 日、アデン湾でキプロス籍船のばら積み船、MV *Jolbos* から海賊に襲撃されているとの通報を受け、ヘリを発進させ、海賊の小型ボートに警告射撃を行い、ヘリのパイロットが該船の乗組員と接触した。その後、その後、この海賊は UAE 籍船のコンテナ船、MV *Dubai* にも接近したが、ヘリからの警告射撃を受け、逃亡した。

SPS *Victoria* は 1 月にソマリア沖に派遣され、EU 艦隊に所属している。海賊対処は今回が初めてであった。

2 月 12 日「ソマリアの海賊、日本関係船解放」(Ecoterra International, February 12, 2009)

ソマリアの海賊は 12 日、日本のイイノマリンサービスの関係船でパナマ籍船のケミカル・タンカー、MT *Chemstar Venus* (1 万 9,455DWT) を解放した。海賊は、タグボートで運ばれた身代金を受け取った後、退去した。該船は、約 2 万トンの精製品を積んで航行中、2008 年 11 月 15 日にアデン湾でハイジャックされ、インド洋に面したエイルに係留されていた。乗組員はフィリピン人 18 人と韓国人 5 人の 23 人で、無事である。

2 月 12 日「ロシア海軍戦闘艦、海賊容疑者 10 人拘束」(RIA Novosti, February 13, 2009)

ロシア海軍報道官によれば、ロシア海軍の原子力ミサイル巡洋艦、*Pyotr Veliky* は 12 日、3 隻の海賊船と 10 人のソマリア人海賊容疑者を拘束した。それによれば、*Pyotr Veliky* の搭載ヘリは、ソコトラ島南東のインド洋で、2 隻の小型高速ボートがイラン国旗を掲げた漁船に向かっているのを発見

した。ボートに乗っていた海賊は、武器を海中に投棄し始めた。ヘリは、*Pyotr Veliky* が現場に到着するまで監視を続けた。これらの船から、ロケット推進擲弾筒、強襲ライフル、麻薬、かなりの額の現金などが発見された。現在、拘束した容疑者を調査中である。

【関連記事】

「イエメン沿岸警備隊、ロシア戦闘艦から海賊容疑者を引き取り」(Saba News, February 18, 2009)

イエメン沿岸警備隊は 18 日、ロシア海軍戦闘艦から 10 人のソマリア人海賊容疑者を引き取った。ラス (Ali Rase) 沿岸警備隊司令官は、ソマリア人海賊容疑者の引き渡しは、イエメンとアデン湾海域に戦闘艦を展開させている各国との間の協力と協調体制の枠組みの中で実現したものである、と語った。イエメンの治安当局は、彼らを起訴するために調査を開始した。

2 月 16 日「サウジ海軍フリゲート、海賊の襲撃を阻止」(Arab News, February 17, 2009)

サウジアラビア通信 (SPA) によれば、サウジアラビア海軍フリゲート、*Al-Riyadh* は 16 日、アデン湾で 3 隻の小型ボートから襲撃されているとのトルコ籍船、*MV Yasa Seyhan* の救難信号を受け、現場海域に向かった。フリゲートが到着した時、海賊は逃亡した。その後、*Al-Riyadh* は、トルコ船を安全海域まで護衛した。*Al-Riyadh* は、CTF-151 の一員として海賊対処に当たっており、この種の任務は今回が初めてであった。

2 月 17 日「米沿岸警備隊幹部、海賊対処における沿岸警備隊の役割を語る」(American Forces Press Service, February 18, 2009)

米沿岸警備隊幹部*は 17 日、Web 上での討論で、海賊対処における沿岸警備隊の役割について、要旨以下の諸点を指摘している。

- ① CTF-151 は 2 月 11 日、12 日の両日で合計 16 人の海賊容疑者を拘束したが、これは、今日の海洋環境におけるあらゆる脅威に対処する上で、海軍と沿岸警備隊が持つ技能を発揮して協同し得ることを示した事例である。
- ② 海賊対処は 3 段階の行動計画に基づく。即ち、襲撃の抑止、襲撃に対する対応、そして海賊の処罰である。沿岸警備隊は、CTF-151 の下で、これら 3 段階の全てにおいて役割を果たしている。
- ③ 第 1 段階の襲撃の抑止における主な手段には、船舶の防衛措置の強化、海洋安全哨戒海域の設定、国際的な外交活動が含まれる。CTF-151 に配属された沿岸警備隊員の主たる役割は、海賊容疑者の起訴を可能にするために、実行行為の全ての段階における証拠収集に関する訓練を行うことである。
- ④ 法的観点から、国際法廷において海賊容疑者を処罰する問題は、困難な課題である。しかし、現在、彼らを起訴するための手順が整えられつつある。米国とケニアとの間で協定が結ばれ、証拠が揃えば、彼らをケニアで起訴できる。

備考* : この幹部は、Capt. Charles Michel, chief of the Office of Maritime and International Law、及び Capt. Michael Giglio, chief of law enforcement の 2 人。

2月17日「中国、アデン湾で最大規模の護衛任務実施」(Xinhua, February 18, 2009)

中国のソマリア沖派遣艦隊は17日、アデン湾でこれまで最大規模の護衛任務を実施した。この任務は、1月6日の任務開始以来、21回目で、10隻の中国籍船に加えて、ドイツ籍船、シンガポール籍船、キプロス籍船各1隻の護衛要請を受け、計13隻を護衛する、これまで最大規模の護衛任務であった。

中国の派遣艦隊は、多目的ミサイル駆逐艦、「武漢」(満載排水量6,500トン)、駆逐艦、「海口」(満載排水量6,500トン)、及び総合補給艦、「微山湖」(満載排水量2万3,000トン)の3隻から構成されている。

Photo taken on February 17, 2009 shows the grand view of the merchant vessels escorted by the Chinese naval fleet in the Gulf of Aden.

http://english.chinamil.com.cn/site2/special-reports/2009-02/19/content_1657686.htm

2月19日「船員2人拉致、マラッカ海峡」(The Straits Times, February 20, 2009)

マラッカ海峡で19日、シンガポールのタグ&バージがシンガポールに向かって航行中、約12人の火器で武装した海賊に襲撃され、2人の乗組員が拉致された。消息筋によれば、襲撃海域はマラッカ海峡の北側で、残りの船員と船は拘束されていない。クアラルンプールの海賊通報センター(PCR)のノエル・チョーン所長は、襲撃事案発生を確認したが、拉致船員の安全を理由に詳細な言及を避けた。

【関連記事】

「海賊、拉致船員を解放」(Fairplay Daily News, February 23, 2009)

ReCAAP 情報共有センター(ISC)は23日、タグボート、MLC *Nancy 5*の船長と機関長が解放されたことを確認した。彼らは、マレーシア北部、ペナン沖のマラッカ海峡で拉致された。MLC *Nancy 5*は、バージ船、*Miclyn 3316*を曳航していた。2人はインドネシア人で、残りの10人の乗組員は無事だったが、装備や現金は強奪された。マラッカ海峡での拉致事案は、2007年8月以来であった。

2月19日「NATO、ソマリア沖に再度艦隊派遣へ」(Shiptalk, February 20, 2009)

NATO のスケップフェル(Jaap de Hoop Scheffer) 事務総長は19日、NATO 国防相会議は NATO

が再度ソマリア沖で海賊対処作戦を実施することに合意した、と発表した。事務総長は、今後数か月以内に、常設 NATO 海洋グループ (Standing NATO Maritime Group) をソマリア沖に派遣する、と語った。事務総長は計画の詳細には言及しなかったが、派遣されるのは、6 隻の戦闘艦で構成される、Standing NATO Maritime Group 1 となろうという。

2 月 21-23 日「中国海軍補給艦、イエメンで補給物資積み込み」(PLA Daily, February 25, 2009)

中国海軍ソマリア派遣艦隊の総合補給艦、「微山湖」は 21 日から 23 日まで、イエメンのアデン港に入港し、燃料、水及び食料品などを補給した。総合補給艦が外国の港で補給するのは、2008 年 12 月の中国出港以来、初めてである。

2 月 22 日「ソマリアの海賊、マルタ籍船をハイジャック」(BBC News, February 22, 2009)

EU 艦隊に所属してアデン湾海域を哨戒中の英海軍フリゲート、HMS *Northumberland* に乗艦している BBC の記者によれば、同艦は 22 日、MV *Saldanha* 船長からの「海賊に乗り込まれた」との救難信号を、該船から 100 キロ離れた海域で受信した。該船の船長が HMS *Northumberland* とコンタクトできた時、海賊から英艦を退去させるよう警告されたと語った。HMS *Northumberland* からヘリが発進して状況を確認したが、ハイジャックされた船舶の奪還は EU 艦隊の任務ではなく、艦長は該船の追跡は権限を超えると判断した。該船はソマリアに向けて航行している。

ギリシャ海運省は MV *Saldanha* のハイジャックを確認した。同省によれば、該船はギリシャの海運会社の貨物船 (マルタ籍船) で、石炭を積んで、スロベニアに向かっていた。該船の乗組員は 22 人である。

MV *Saldanha* (75,707DWT)

Source: Fairplay Daily News, February 22, 2009

<http://www.mschoa.eu/FairplayStoryDisplay.aspx?articlename=dn0020090223000006>

【関連記事】

「乗組員は無事、該船はソマリア沖に係留」(Shiptalk, February 27, 2009)

ウクライナ外務省によれば、該船はソマリア沖に係留されており、乗組員の健康状態は良好で、食糧、水、燃料なども十分にある。22 人の乗組員の内訳は、フィリピン人 19 人、ロシア人 2 人、ウクライナ人 1 人である。

2 月 25 日「米海軍、海賊対処に無人機利用」(Defense Professionals, February 25, 2009)

米海軍の誘導ミサイル駆逐艦、USS *Mahan* (DDG 72) は、無人機 (UAV) を艦の戦闘システム

に全面的に組み込んだ最初の艦である。USS *Mahan* は現在、CTF-151 に所属している。同艦の UAV は毎日、海洋監視を続けており、艦上の情報分析官が常時モニターすることで、海上における海賊行為を疑われる事態を監視している。UAV は高画質の映像をリアルタイムで送信することで、迅速な事態対処を可能にしている。UAV は、昼間でも、夜間でも飛行可能である。USS *Mahan* は、CTF-151 所属の戦闘艦だけでなく、アデン湾海域における海賊対処任務をより効率的に遂行するために、各国海軍の戦闘艦とも密接に協同している。同艦の UAV 映像分析官は、高画質の映像を各国海軍の戦闘艦に迅速に伝達できると語っており、UAV は、CTF-151 の海賊対処任務において不可欠のアセットとなっている。

Scan Eagle

Left:http://3.bp.blogspot.com/_E-QOnTGFX_o/SaVRzKijbOI/AAAAAAAAAGrQ/i0wDDKdwzGk/s1600-h/060823-N-8547M-040.jpg

Right:http://3.bp.blogspot.com/_E-QOnTGFX_o/SbEdME27nfI/AAAAAAAAAGvw/XwiL-qBzxx4/s1600-h/AIR_UAV_ScanEagle_Underside_lg.jpg

2月25日「スイス、武装兵士をアデン湾通航の自国籍船に派遣」(Shiptalk, February 25, 2009)

スイス政府は25日、アデン湾通航の自国籍船を護衛するため、最大30人の武装兵士を派遣することを決定した。

2月25日「ウクライナ、EU艦隊に参加の意向、但し費用は自前」(Shiptalk, February 27, 2009)

EU当局は25日、ウクライナ代表団に対して、ウクライナがソマリア沖での海賊対処のためにEU艦隊に参加することを決めるなら、派遣艦の運用に関わる全ての経費は自前で負担しなければならない、と通告したことを明らかにした。EU艦隊への参加国は、経費を全て自前で負担している。ウクライナのユーシチェンコ大統領は、EU艦隊の枠内で海賊対処に参加する意向を明らかにしている。同国国防省の見積もりによれば、ソマリア沖に戦闘艦1隻を派遣すれば、毎月2,600万ウクライナ・グリブナ（約260万ユーロ）の経費を要するという。

2月26日「デンマーク海軍戦闘艦、アデン湾で中国船を救助」(U.S. Naval Forces Central Command Public Affairs, Press Release, February 26, 2009)

CTF-151に所属するデンマーク海軍の戦闘艦、HDMS *Absalon* (L 16) は26日、中国船、MV *Yandanghai* を海賊の襲撃から阻止した。HDMS *Absalon* は、中国船からの救難信号を受信して現場

海域に接近し、中国船から通報のあった小型ボートを発見した。臨検チームは、小型ボートからロケット推進擲弾筒、AK-47 強襲ライフル 4 丁、手榴弾 2 発、ナイフ 1 本を含む武器を発見し、押収した。海賊容疑者は、中国船が放水しながら回避行動を取ったため、該船に乗り込むことができなかった。

2月26日「中国海軍駆逐艦、アデン湾でイタリア船を救助」(Xinhua, February 26, 2009)

中国ソマリア派遣艦隊の駆逐艦、「海口」はアデン湾で 26 日、3~4 カイリの距離から 2 隻のヨットに接近されているとのイタリアの商船（リベリア籍船）、MV *Lia* の救難信号を受信し、3 人の武装兵士と 1 人のカメラマンを乗せた搭載ヘリを発進させた。現場海域に到着したヘリは、商船に近接している 2 隻のヨットを発見し、2 発のフレアを警告発射した。ヨットは 2 基のエンジンを備えており、高速で逃亡した。2 分後、MV *Lia* から「海口」に感謝のメッセージが送信された。中国ソマリア派遣艦隊が外国船を救助したのは、1 月 29 日の「武漢」によるギリシャ船の救助に次いで 2 度目であった。

2月27日「ノルウェー、EU 艦隊にフリゲート派遣」(Council of the European Union, News in Brief, February 27, 2009)

ノルウェー政府は 27 日、EU がソマリア沖で実施している海賊対処作戦、EU NAVFOR ATALANTA に、*Nansen* 級フリゲート 1 隻を派遣することを決定した。フリゲートは 8 月にソマリア沖に展開予定である。

EU NAVFOR ATALANTA は現在、ギリシャ、英国、フランス、スペイン及びドイツからの戦闘艦と哨戒機で構成されており、現在の派遣艦隊の旗艦はギリシャ海軍戦闘艦で、4 月からはスペイン艦、8 月からはオランダ艦が旗艦となる。EU 艦隊には今後、スウェーデン、イタリア、ベルギー及びオランダが参加することになっている。また、スイスも参加の意向を表明している。

Nansen 級フリゲート（満載排水量 5,290 トン）

http://en.wikipedia.org/wiki/File:FR_KNMFN.JPG

2月28日「中国最大の巡視船、進水」(Xinhua, March 1, 2009)

中国交通運輸省海事局によれば、中国最大の巡視船、「海巡 11」が 28 日に進水した。海事局常務委員会の劉功臣副局長は、「海巡 11」が 6 月に就役すると語った。「海巡 11」は、全長 114 メートル、満載排水量 3,249 トン、航続距離は最大 6,000 カイリ、最高速度は時速 40 キロ以上、ヘリ 1 機を搭載している。「海巡 11」は、捜索救難任務、沿岸監視、指揮船などとして多様な任務を遂行できる。

「海巡 11」

http://www.china.org.cn/china/news/2009-03/01/content_17353638.htm

2月28日「インド、海洋・沿岸治安体制を統合化」(The Times of India, March 1, 2009)

インド政府は28日、海洋・沿岸治安体制の抜本的な見直しを発表した。これは、11.26 ムンバイ・テロの教訓を踏まえたものである。アントニー国防相が発表した、見直しの概要には、以下のような措置が含まれている。

- ① 海軍は、沿岸及び沖合の安全確保を含む、全般的な海洋安全保障に対して責任を負う、「指定機関」となる。海軍は、沿岸警備隊、州海洋警察、及びその他の中央、地方沿岸防衛機関からの支援を受ける。海軍の西部、東部及び南部司令部の司令官は、「沿岸防衛司令官」("commanders-in-chief of coastal defence") を兼ねる。
- ② 海軍及び沿岸警備隊の作戦ルームと地上及び宇宙レベルで連結した、全国的な指揮、統制、通信及び情報ネットワークが設置される。また、統合運用センターが、ムンバイ、ビジャカパトナム、コーチン、ポート・ブレア（アンダマン島）に新設される。
- ③ 海軍及び沿岸警備隊の戦力は増強される。例えば、海軍には、1,000人規模の兵力と80隻の高速艇を有する特殊部隊、the Sagar Prahari Bal が新編される。沿岸警備隊では、5隻の外洋巡視船、10隻の高速艇、12機の航空機、30機のヘリなどが増強される。
- ④ 沿岸警備隊長官は、新設される沿岸司令部司令官 (the commander of the Coastal Command) を兼ねる。また、長官は、沿岸治安に関する全ての問題について、中央と地方の諸機関の全般調整に責任を有する。

1.2 軍事

2月3日「キルギス、米軍基地閉鎖を決定」(The Washington Post, February 4, 2009)

キルギスのバキーエフ大統領は3日、中央アジアに残った最後の米空軍基地を閉鎖することに決した、と語った。この決定は、ロシアのメドベージェフ大統領がバキーエフ大統領とのモスクワ会談で、同国に対する20億ドルの借款に合意した後で、明らかにされた。バキーエフ大統領によれば、米国がマナス基地の賃貸料の増額を拒否したこと、同国内における米国の軍事プレゼンスに対する国民の反対が強まっていることが、この決定の後押しとなった。首都、ビシケク郊外の基地は、アフガンへ

の米軍と NATO 軍の輸送拠点となっており、約 1,500 人の米軍兵力が駐留している。

【関連記事 1】

「キルギス国会、米空軍基地の閉鎖決定」(The Washington Post, February 20, 2009)

キルギス国会は 19 日、マナスの米空軍基地の閉鎖を、賛成 78 対反対 1 で可決した。しかし、米国は、使用継続に望みを繋いでいる。バキーエフ大統領は 20 日、マナス基地貸与協定を廃棄する法案に署名した。

【関連記事 2】

「キルギス、米に 6 カ月の撤退期間を通告」(American Forces Press Service, February 20, 2009)

米国防省報道官によれば、キルギス外務省は 20 日、米国に対して、マナス空軍基地からの撤退を 180 日以内に終えるよう、正式に通告した。同報道官は、基地の継続使用について、キルギスと話し合いを続ける、と語った。米国は、マナス空軍基地の使用料として、年間 1,740 万米ドルを支払っている。米国は 3 年前に、ギルギスとの間で、2011 年までの基地使用協定を締結している。マナス空軍基地は、アフガンへの主要な兵站補給基地で、約 1,500 人の要員が駐留し、月間 500 トンの貨物を処理している。同報道官は、マナスは重要な施設であるが、代替できない基地施設ではなく、必要なら他の選択肢を検討することになる、と語った。

2 月 3 日「中国潜水艦の 2008 年の哨戒活動、2007 年から倍増」(FAS Security Blog, February 3, 2009)

米シンクタンク「全米科学者連盟」(Federation of American Scientists: FAS) のクリステンセン (Hans M. Kristensen) 研究員は 3 日、中国の攻撃型潜水艦隊は 2008 年に 12 回の哨戒活動を実施したが、これは 2007 年の 2 倍である、ことを明らかにした。このデータは、FAS が米情報公開法に基づく米海軍情報部への情報開示請求によって得たものである。年間 12 回の哨戒活動は、過去最多である。2007 年は 6 回、2006 年は 2 回、2005 年はゼロであった。これは、2007 年と 2008 年が 7 回であった、ロシア海軍より多い。下表は 1981 年以降の哨戒活動回数の推移を示したものである。

Chinese Submarine Patrols 1981-2008

<http://www.fas.org/blog/ssp/2009/02/patrols.php>

潜水艦の活動状況の詳細については、米海軍は公表に応じていないが、クリステンセン研究員は哨戒活動について、「潜水艦基地から離れた長期の航海であり、短期間の訓練とは異なると見られる」と指摘した。12回という回数は、中国の現有攻撃型潜水艦が54隻であることから、各潜水艦は平均して4年半に1回哨戒活動に出ることになる。しかし実際には、哨戒活動は一部の潜水艦のみで実施されてきた可能性がある。米海軍の場合は、各潜水艦は少なくとも年1回は長期哨戒活動に出ている。

一方、潜水艦発射弾道ミサイル (SLBM) を搭載した戦略ミサイル原潜 (SSBN) については、最新型の晋級 (Type-094) も、2007年後半に大がかりな改装終了が伝えられる旧式の夏級 (Type-092) とも、核抑止のための哨戒活動はまだ確認されていない。

2月4日「アデン湾で中印 ASW 戦?、インド否定」(Indian Express, February 4, 2009)

中国メディアは、1月15日にアデン湾でインドの Kilo 級潜水艦と中国の派遣戦闘艦が1時間にわたって ASW 戦を繰り広げ、潜水艦を浮上させた、と報道した。この報道に対して、インド海軍当局者は、インドはマラッカ海峡からソマリア沖に航行する中国の派遣艦隊を追跡していたことを認めたが、インド潜水艦が浮上させられたとの報道は否定した。同当局者は、「追跡は通常の任務である。我々は、インド周辺海域を航行する海軍戦闘艦をあらゆる手段で追跡している。しかしながら、インド潜水艦が浮上させられたとの報道は誤りである」と語った。

備考: 3月19日付共同電によれば、この報道は捏造だったとして記事を掲載した中国紙2紙に対して罰金などの処分が課されたと、中国新聞出版報が報じた。

2月18日「インド、2011年までに国産空母配備へ」(The Times of India, February 18, 2009)

インド海軍のメタ司令官は18日、2011年までに国産空母1番艦を配備することになる、と語った。メタ司令官によれば、満載排水量4万トンの国産空母は3年前からコーチンの造船所で建造作業が進められているが、2月28日に起工式が行われる。

2月20日「イラン海軍、領海外展開へ」(Press TV, February 20, 2009)

イラン海軍のサヤリ (RADM Habibollah Sayyari) 司令官は20日、イランは国際海域で強力な海軍力のプレゼンスを確立するため、海軍戦闘艦の活動を領海内に止めるという自主規制を撤廃した、と語った。同司令官は、「我々は、国際海域において海軍力のプレゼンスを維持する権利を有している。この措置はイランの国益を護り、ショー・ザ・フラッグとなる」と語った。この措置によって、イラン海軍戦闘艦はインド洋のかなりの海域にプレゼンスを維持することになる。イランは2008年10月、ホルムズ海峡の東側のジャースク (Jask) に海軍基地を新設しており、この基地は「防衛線」(a "defense front") とされ、域外の敵国の通峡を阻止する計画の一環と見られている。サヤリ司令官は、ジャースク海軍基地は新たな措置において重要な役割を果たす、と強調した。海軍当局によれば、領海外におけるプレゼンス強化のため、海軍のインフラ整備と新型駆逐艦の増強が計画されている。イラン海軍はこの措置の一環として、既に1カ月間に亘るインド洋展開任務を終了している。

Source: BBC News, October 28, 2008
http://news.bbc.co.uk/2/hi/middle_east/7694947.stm

備考：イランは 2008 年 12 月 22 日、海軍戦闘艦がアデン湾海域に入った、と発表した。(OPRF 海洋安全保障情報月報 2008 年 12 月号 1.1 治安参照。なお、ジャースク海軍基地については OPRF 海洋安全保障情報月報 2008 年 10 月号 1.1 軍事参照。)

2 月 21 日「米原子力空母、『アフリカの角』海域に出動」(UPI, February 23, 2009)

米海軍の原子力空母、USS *Dwight D. Eisenhower* は 21 日、バージニア州ノーホーク海軍基地を出港し、哨戒活動を実施するために「アフリカの角」海域に向かった。

2 月 27 日「ロシア、6 万トン級の原子力空母計画」(RIA Novosti, February 27, 2009)

ロシアの United Shipbuilding Corporation の防衛部門の責任者が 27 日に明らかにしたところによれば、ロシアの新世代の空母は 6 万トン級の原子力空母になるという。それによれば、新型空母は未だ設計段階だが、基本的な諸元は既に確定している。空母は、新世代の固定翼と回転翼機、特に現世代の Su-33 戦闘機に替わる第 5 世代の戦闘機と無人機 (UAV) のプラットフォームになろう。新型空母は、北洋艦隊と太平洋艦隊向けに、少なくとも 3 隻建造される。新型空母の価格は、40 億米ドルと見込まれているという。

1.3 外交・国際関係

2 月 2 日「比下院、領域確定法案可決」(INQUIRER.net, February 2, 2009)

フィリピン下院は 2 日、領域確定法案、House Bill 3216 (or An Act Defining the Archipelagic Baselines of the Philippine Archipelago) を、賛成 177、反対 3、棄権 0 で可決した。この法案は、スカーバラ礁 (Scarborough Shoal) とカラヤン諸島 (the Kalayaan group : タガログ語で「南沙諸島」) を領域基線に含めており、これらを「島の制度」として扱っていない。上院の最終案は、スカーバラ礁とカラヤン諸島を、基線の外側にある、(UNCLOS 第 121 条の)「島の制度」(“regimes of islands”)として扱っている。政府もこの立場を支持している。(下図参照)

【関連記事 1】**「比上院外交委員長、下院案を批判」(INQUIRER.net, February 3, 2009)**

サンチアゴ上院外交委員長は 3 日、下院案を、「致命的な欠陥があり、外交的な災難をもたらす可能性がある」と批判した。サンチアゴ外交委員長は声明で、スカーバラ礁とカラヤン諸島を領域基線に含めることは、既に一部の東南アジア諸国と中国がその多くを占拠しており、無益であると述べた。下院案と上院案は両院協議会にかけられることになる。フィリピンの大陸棚外側限界の延長申請提出期限は 5 月 13 日までであり、その前に領域を確定する必要がある。

【関連記事 2】**「比外務次官、上院案採択を歓迎」(Philippine Daily Inquirer, February 11, 2009)**

フィリピン外務省のセギス次官は、両院協議会が上院案採択したことについて、国益に適い、国際法規にも合致している、と歓迎した。スカーバラ礁とカラヤン諸島に対して「島の制度」を適用することによって、フィリピンは、他国による領有権主張の存在を認めながらも、これらに対して自国の主権を引き続き主張することになる。セギス次官は、中国も領域法において同様の立場を取っているとして、中国は南沙諸島に対する主権を主張しているが、領域基線に含めておらず、また基点ともしていない、と指摘している。その上で、セギス次官は、「同様のアプローチは上院案でも採用されており、カラヤン諸島に対する主権を主張しているが、フィリピンの群島基線には含めておらず、基点ともしていない」と強調した。

上下両院は 17 日、両院協議会合意法案を承認した。

下院案

http://www.ellentordesillas.com/wp-content/uploads/2008/03/map2_hb3216.JPG

上院案、両院協議会採択

http://www.ellentordesillas.com/wp-content/uploads/2008/03/map3_cmoa_option.JPG

備考：3月12日付けの比紙、Philippine Daily Inquireによれば、アロヨ大統領は3月10日、領海法、Republic Act No. 9522 (the Philippine Archipelagic Baselines Law) に署名した。他国との無用の論議を避けるため、署名式典は行われなかった。

1.4 海運・資源・環境・その他

2月4日「バングラデシュ人船員需要、大幅増」(Shiptalk, February 4, 2009)

バングラデシュ人船員の世界海運市場における需要が大幅に増えており、同国の有力な外貨獲得源になりつつある。最近の国際機関による調査によれば、世界の海運会社の外航船に乗るバングラデシュ船員の数は、1990年の1,110人から2005年の4,822人に増加している。2005年以降も船員需要が増加しているが、有資格船員の数が不足しており、需要を満たし切れていない。バングラデシュは、IMOによるSTCW条約(船員の訓練・資格証明・当直基準条約)の「ホワイト・リスト」国で、18カ国と2国間協定を結んでいる。ある調査によれば、バングラデシュ人船長の月収は6,000～7,000米ドルで、一方士官と機関士のそれは2,500～5,000米ドルとなっている。

2月17日「中ロ両国、石油供給協定に調印」(BBC News, February 17, 2009)

中ロ両国は17日、中国がシベリアの油田から石油供給を受け、その見返りにロシアの石油会社とパイプライン会社に借款を供与する、総額250億米ドルの協定に調印した。この協定の下で、中国開発銀行は、ロシアの国営石油会社、Rosneftに150億米ドル、パイプライン会社、Transneftに100億米ドルの借款を供与する。一方、ロシアは、今後20年間に亘って、年間1,500万トン(1日当たり30万バレル)の石油を供与する。中国の温家宝首相は、この協定を「政治的に重要なもの」と語った。

2月17日「スエズ運河収入、連続5カ月減収」(Trade Winds, February 17, 2009)

エジプト政府の発表によれば、スエズ運河収入は、欧州とアジア間の貿易量の減少とアデン湾の海賊事案によって、連続5カ月の減収となった。1月の収入は、3億3,240万米ドルで、前年同期の3億9,180万米ドルに比べて、20%の減収である。1月の通航船舶隻数も1,313隻で、前年同期の1,600隻、2008年12月の1,560隻に比べて、減少している。

2月18日「サハリンII、稼働」(RIA Novosti, February 19, 2009)

ロシア初のLNGプラントの稼働式典は18日、ロシアのメドベージェフ大統領と麻生太郎首相が出席して、サハリン(樺太)のプリゴロドノエで行われた。プラントはサハリンIIプロジェクトの一部で、年間960万トンの生産能力を持ち、アジア太平洋地域への主要なエネルギー供給源となる。日本、韓国及び米国の企業は既に、今後25年間の購入契約を結んでいる。サハリンIIの主要施設である、沖合の3基の生産プラットフォーム、及びサハリン北東端から南部に輸送するトランス・サハリン石油・天然ガス・パイプライン(海底300キロと陸上800キロ)は現在、全面稼働状態にある。

2月20日「中国石油化工、ブラジル国営石油と輸入契約」(Xinhua, February 20, 2009)

中国石油化工(Sinopec)は20日、ブラジル国営石油会社、Petrobrasとの間で、今後1年間で300~500万トンの原油を輸入する契約を結んだ、と発表した。一方、Sinopecと中国開発銀行(CDB)は覚書を締結し、CDBは、Petrobrasの石油開発、精製事業に財政支援を行う。

2月25日「韓国、周辺海域でのガス田開発を本格化」(The Chosun Ilbo, February 26, 2009)

韓国政府は、今後10年間、領海内でのガス田探査を活発化させる。知識経済省が25日に明らかにしたところによれば、同省は、1兆1,000億ウォン(約704億円)を投入し、黄海の6鉱区、済州島周辺の6鉱区、および鬱陵島周辺の8鉱区を含む、韓国の大陸棚20カ所で新たに試掘を行い、石油換算で1億バレルのエネルギー資源を確保する計画である。韓国は、1970年以来、43カ所で試掘を行ってきたが、開発中のガス田はわずか4カ所に過ぎない。このうち日本海のガス田は、1日当たり9,000バレルの天然ガスと1,200バレルの超軽質油を生産している。また韓国は、「燃える氷」と呼ばれるメタンハイドレードの商業生産も始める計画である。鬱陵島周辺の約10カ所の有望海域で2010年から試掘を開始し、2013~2014年の試験生産を目指している。この海域には、推定8~10億トンのメタンハイドレードがあるという。

2. 情報分析

アジアにおける海賊及び武装強盗の態様と傾向 ～ReCAAP2007年調査報告書から～

2006年9月に発効したアジア海賊対策地域協力協定(ReCAAP)^{*}に基づいて設立された、ReCAAP 情報共有センター(ISC)は1月下旬、2008年におけるアジアで発生した海賊行為と船舶に対する武装強盗事案に関する年次報告書を公表した。以下は、ReCAAP 報告書から見た、過去4年間(2004年～2007年)と比較した、2008年におけるアジアの海賊行為と船舶に対する武装強盗事案の特徴である。(国際海事局(IMB)の年次報告書による2008年の海賊行為と武装強盗事案については、OPRF 海洋安全保障情報月報2009年1月号2.分析を参照。)

1. 海賊と武装強盗の定義

海賊(Piracy)と武装強盗(Armed Robbery)とは、ReCAAP・ISCの定義によれば、海賊については国連海洋法条約(UNCLOS)第101条「海賊行為の定義」に従っている。船舶に対する武装強盗については、国際海事機関(IMO)が2001年11月にIMO総会で採択した、「海賊行為及び船舶に対する武装強盗犯罪の捜査のための実務コード」(Code of practice for the Investigation of the Crimes of Piracy and Armed Robbery against Ships)の定義に従っている。

2. 発生事案の重大度の評価

ReCAAP 報告書の主たる情報源は、ISCの情報ネットワークシステム(IFN)を通じた、加盟国のFocal Point(各国の海上保安機関や海軍)から情報であるが、必要な場合、国際海事機関(IMO)やIMBの情報、またメディア等の公開情報も利用している。

ReCAAP の報告書の特徴は、こうした情報源から得た発生事案について、暴力的要素(Violence Factor)と経済的要素(Economic Factor)の2つの観点から、その重大度(Significance of Incident)を評価していることである。

暴力的要素の評価に当たっては、①使用された武器のタイプ(ナイフなどよりもより高性能な武器が使用された場合が最も暴力性が高い)、②船舶乗組員の扱い(死亡、拉致の場合が最も暴力性が高い)、③襲撃に参加した海賊/武装強盗の人数(この場合、人数が多ければ多いほど暴力性が高く、また組織犯罪の可能性もある)を基準としている。

経済的要素の評価に当たっては、被害船舶の財産価値を基準としている。この場合、該船が積荷ごとハイジャックされる場合が最も重大度が大きくなる。

報告書は、こうした評価から、発生事案を以下のようにカテゴリー分けをしている。

^{*} ReCAAP の加盟国は、以下の14か国である。インド、スリランカ、バングラデシュ、ミャンマー、タイ、シンガポール、カンボジア、ラオス、ベトナム、ブルネイ、フィリピン、中国、韓国、日本。マレーシアとインドネシアは未加盟。

なお、ReCAAP 報告とIMB 報告で事案発生件数が異なる大きな理由は、ReCAAP 報告の対象海域がアラビア海からユーラシア大陸南縁に沿って北東アジアに至る海域であるのに対して、IMB 報告のそれは全世界を対象としているからである。

Category	Significance of Incident
CAT-1	Very Significant
CAT-2	Moderately Significant
CAT-3	Less Significant

3. 2008 年の発生（未遂を含む）件数と発生場所の特徴

報告書によれば、2008 年にアジアで報告された発生事案は 96 件で、その内、既遂が 83 件、未遂が 13 件であった。過去 4 年間と比べてみれば、発生件数では減少傾向にあり、過去 4 年間で最も少なかった、2007 年の 100 件（既遂 77 件、未遂 23 件）に比して、4%減となっている。過去 5 年間の発生件数は、表 1 に示すとおりである。

表 1. 過去 5 年間の発生件数

	2008 年	2007 年	2006 年	2005 年	2004 年
既遂事案	83	77	100	117	145
未遂事案	13	23	35	31	55
総計	96	100	135	148	200

出典：ReCAAP2008 年報告書、13 頁のグラフ 1 より作成

既遂事案をカテゴリー別に見れば、2008 年は 2007 年に比して、既遂事案が 8%増となっており、特に CAT-2 事案が 40%増になっているのが目立つ。また、CAT-1 事案は 2007 年に比して、1 件減となっている。下表は、過去 5 年間のカテゴリー別の既遂事案件数である。

表 2. 過去 5 年間の既遂件数のカテゴリー別内訳

	2008 年	2007 年	2006 年	2005 年	2004 年
CAT-1	4	5	3	7	19
CAT-2	21	15	38	34	51
CAT-3	58	57	59	76	75
計（未遂を含む総計）	83 (96)	77 (100)	100 (135)	117 (148)	145 (200)

出典：ReCAAP2008 年報告書、17 頁のグラフ 2 より作成。

2008 年の発生場所から見れば、インドでは、発生件数は 2007 年に比して増えているが、重大度から見れば低下している。即ち、全発生件数 10 件全てが CAT-3 であった。バングラデシュのチッタゴン港と錨泊地の状況は改善されてきており、重大度も低下してきている。報告書は、チッタゴン港とその周辺の治安状況の改善におけるバングラデシュ当局の努力を評価している。

他方、インドネシアのタンジュン・プリオクとジャカルタ周辺の治安状況も、大幅に改善されてきており、重大度も低下してきている。2008 年には、わずか 4 件の CAT-3 事案があったのみである。対照的に、マレーシア東岸のタンジュン・アヤム、ジョホール、ティオマン島周辺における 2008 年の発生件数は 11 件（CAT-1 が 1 件、CAT-2 が 6 件、CAT-3 が 4 件）で、2007 年の 6 件（CAT-2 が 4 件、CAT-3 が 2 件）に比して増大しており、重大度も上がっている。また、ベトナムの港湾、錨泊地

での 2008 年の発生件数も増大している。下表は、過去 5 年間の対象地域での発生件数を示したものである。

表 3. 過去 5 年間の対象地域での発生件数

	2008 年		2007 年		2006 年		2005 年		2004 年	
	既遂	未遂	既遂	未遂	既遂	未遂	既遂	未遂	既遂	未遂
東アジア										
中国					1		4	3		
小計					1		4	3		
南アジア										
バングラデシュ	10	2	12	1	30	14	15	4	14	
インド	10	1	8		3		12	2	8	4
アラビア海			1	3		1			3	
ベンガル湾			1					1	1	1
スリランカ				1	1					
小計	20	3	22	5	34	15	27	7	26	5
東南アジア										
インドネシア	24	1	33	7	39	10	62	10	70	17
マレーシア	12		7	1	10	1	2		7	2
ミャンマー									1	
ベトナム	11	1	5		3		10		2	
タイ湾							1			
南シナ海	4	2	1	5	3		3	6	9	6
マ・シ海峡	6	4	3	4	6	7	8	8	21	22
タイ			1		1				3	1
フィリピン	6	2	5	1	3	2			3	2
小計	63	10	55	18	65	20	86	24	116	50
総計	83	13	77	23	100	35	117	31	145	55
	96		100		135		148		200	

出典：ReCAAP2008 年報告書、14 頁の表 6 より作成

4. 態様から見た特徴

報告書によれば、襲撃された船舶の状況から見れば、既遂件数の多くが入港中・錨泊中に襲撃されたケースである。2008 年は、83 件中、59 件が入港中・錨泊中で、航行中が 24 件であった。2007 年は、77 件中 62 件が入港中・錨泊中で、航行中が 15 件であった。報告書は、2008 年の航行中の件数の割合が、2007 年の 19% に比して、29% に増大していることに注目している。入港中・錨泊中の事案は、下表に見るように、CAT-3 事案が多い。

表 4. 過去 5 年間の入港中・錨泊中既遂事案のカテゴリー別内訳

	2008 年	2007 年	2006 年	2005 年	2004 年
CAT-1			1	2	1
CAT-2	6	9	18	20	18
CAT-3	53	53	52	65	62
計	59	62	81	87	81

出典：ReCAAP2008 年報告書、21 頁のグラフ 5 より作成。

他方、航行中に襲撃されるケースでは、ほとんどが CAT-1 か CAT-2 に類別される事案である。2008 年における 24 件の既遂事案の内、19 件が CAT-1 か CAT-2 であった。2008 年の CAT-1 事案 4 件中、2 件はハイジャック事案で、他の 2 件は乗組員が死亡している。

表 5. 過去 5 年間の航行中既遂事案のカテゴリー別内訳

	2008 年	2007 年	2006 年	2005 年	2004 年
CAT-1	4	5	2	5	18
CAT-2	15	6	20	14	33
CAT-3	5	4	7	11	13
計	24	15	29	30	64

出典：ReCAAP2008 年報告書、21 頁のグラフ 5 より作成。

5. 目標となった船舶のタイプ

報告書によれば、2008 年と 2007 年に襲撃された船舶のタイプで最も多かったのは、各種「タンカー」であった。対照的に 2004 年～2006 年までは、「ばら積み貨物船」が最も多かった。

2008 年の全発生事案 96 件中、襲撃された船舶のタイプで最も多かったのは各種「タンカー」で、その内訳は「原油タンカー」が 3 隻、「ケミカル・タンカー」が 14 隻、「精製品タンカー」が 5 隻、「LPG タンカー」が 5 隻、「タンカー（その他）」が 5 隻、「VLCC」が 1 隻であった。以下多い順に、「コンテナ船」が 19 隻、「ばら積み貨物船」が 14 隻、「一般貨物船」が 12 隻、「タグボート/はしけ」が 11 隻、「客船」が 2 隻、「漁船・トロール船」、「車両運搬船」、「ダイビング支援船」、「調査支援船」及び「補給船」が各 1 隻であった。

報告書は、2008 年における「タグボート/はしけ」の増加に注目している。2008 年の 96 件に占める比率は 11 隻、11%であり、これは 2007 年の 100 件中 7 隻、7%、2006 年の 135 件中 6 隻、4%、2005 年の 148 件中 12 隻、8%より多く、2004 年の 200 件中 22 隻、11%と同じ比率であった。2008 年に「タグボート/はしけ」が襲撃された事案のほとんどが航行中の事案であり、その内、CAT-1 事案が 1 件、CAT-2 事案が 7 件、CAT-3 事案が 3 件であった。これらに事案のほとんどが、マレーシアのティオマン島周辺海域、マ・シ海峡、南シナ海で発生している。

6. 重大度から見た特徴

暴力的要素から見た 2008 年の事案の特徴について、報告書は、既遂事案 83 件中、92%の事案が、襲撃に参加した海賊/武装強盗の人数が 1～6 人の少グループによるものであった、と指摘している。

全般的に ReCAAP 対象海域での海賊事案は、下表に示すように、1～6 人の少グループによるものがほとんどである。報告書によれば、2008 年に襲撃人数が 9 人以上であった事案 9 件中、6 件が航行中、3 件が錨泊中であった。また、9 件中 3 件が CAT-1 事案で、6 件が CAT-2 事案であった。

表 6. 過去 5 年間の襲撃人数から見た既遂事案の内訳

人数	2008 年	2007 年	2006 年	2005 年	2004 年
1～6 人	69	64	75	99	109
7～9 人	5	7	11	13	18
9 人以上	9	6	14	5	18

出典：ReCAAP2008 年報告書、26 頁のグラフ 8 より作成

使用された武器のタイプから見れば、ReCAAP 対象海域の事案はナイフによるものが一般的である。多くの海賊／武装強盗は、係船ロープを切断したり、船舶に乗り込む際の障害を除去したりするために、ナイフで武装している。使用武器の比率から見れば、2008 年の既遂事案では、銃器の使用比率が過去 4 年間と比較して 83 件中、9 件で、11%と低かった。因みに、2007 年は 77 件中 10 件 (13%)、2006 年は 100 件中 17 件 (17%)、2005 年は 117 件中 21 件 (18%)、2004 年は 145 件中 30 件 (21%) であった。

表 7. 既遂事案での人的被害の状況

	2008 年	2007 年	2006 年	2005 年	2004 年
拉致		4	1	4	14
死亡	2		2		5
行方不明		1		1	3
重傷		1	4	4	8
人質	2	6	20	8	18
船外投げだし	2	1		2	1
襲撃	3	3	4	8	9
脅迫	2	3	5	6	11

出典：ReCAAP2008 年報告書、24 頁のグラフ 7 より作成。

他方、船舶乗組員の扱いについてみれば、上の表に見るように、2008 年は死亡事案が 2 件あった。いずれも、フィリピンでの事案であった。拉致事案はなかったが、人質に取られた事案が 2 件あり、1 件はバングラデシュのチッタゴン港、もう 1 件はカリマンタン島東岸でのハイジャック事案であった。船外に投げ出した事案も 2 件あった。1 件はマレーシア漁船のハイジャック事案で、もう 1 件はティオマン島沖での事案であった。

2008 年の既遂事案を経済的要素から見れば、船舶の備品やエンジン部品の盗難が最も一般的であった。また、現金や持ち物の強奪も増えている。下表は、過去 5 年間の経済的要素から見た既遂事案の内訳である。この場合、該船が積荷ごとハイジャックされる場合が最も重大度が大きくなる。

表7. 過去5年間の経済的要素から見た既遂事案の内訳

	2008年	2007年	2006年	2005年	2004年
積荷強奪		1		3	2
ハイジャック/船舶行方不明	3	4	5	6	12
現金/持ち物	20	5	17	8	40
エンジン部品/船舶備品	27	34	42	58	48
雑品	12	12	6	13	5

別添：海洋政策研究財団作成資料

1. 2009 年におけるアデン湾・ソマリア沖のハイジャック事案の状況

3 月 10 日現在

船名	発生日	解放日 (拘束日数)	乗組員 (死亡)	船舶のタイプ	旗国
<i>Blue Star</i> (A)	1.1	3.4 (64)	28	General Cargo	St Kitts & Nevis
<i>Sea Princess II</i> (A)	1.2			Tanker	Panama
(A)*	1.3			General Cargo	Yemen
<i>Longchamp</i> (A)	1.29		13	LPG Tanker	Bahamas
<i>Saldanha</i> (A)	2.22		22	General Cargo	Maltese

出典：各種の報道資料から作成。空欄箇所は不明。

注：上記表中の (S) はソマリア沖を、(A) はアデン湾でのハイジャック事案を示す。

備考*：未確認情報。

別添 2 : 海洋政策研究財団作成資料

2. 2008 年におけるアデン湾・ソマリア沖のハイジャック事案中、2009 年 1 月以降の解放状況
3 月 10 日現在

船名	発生日	解放日 (拘束日数)	乗組員 (死亡)	船舶のタイプ	旗国
<i>Yenegoa Ocean</i> (S) *	8.5		8	Tug/Supply Vessel	Panama
<i>Faina</i> (S)	9.25	2009.2.5 (134)	21(1)	Ro-Ro vessel	Belize
<i>African Sanderling</i> (A)	10.15	2009.1.11 (88)	21	Bulk Carrier	Panama
<i>Yasa Neslihan</i> (A)	10.29	2009.1.7 (70)	20	Bulk Carrier	Marshall Island
<i>CEC Future</i> (A)	11.7	2009.1.16 (70)	13	General Cargo	Bahamas
<i>Stolt Strength</i> (A)**	11.10		23	Chemical Tanker	Philippines
<i>Karagol</i> (A)	11.12	2009.1.13 (61)	14	Chemical Tanker	Turkey
<i>Tian Yu.8</i> (S)	11.13	2009.2.8 (87)	24	Fishing Vessel	China
<i>Sirius Star</i> (S)	11.15	2009.1.9 (55)	25	Crude Oil Tanker	Liberia
<i>Chemstar Venus</i> (A)	11.15	2009.2.12 (58)	23	Chemical Tanker	Panama
<i>Delight</i> (A)	11.18	2009.1.9 (53)	25	Bulk Carrier	Hong Kong
<i>Biscaglia</i> (A)	11.28	2009.1.22 (55)	28	Chemical Tanker	Liberia
<i>Al-Qana's</i> (A)	12.10	2009.1.2 (23)	8	Fishing Boat	Yemen
<i>Masindra 7</i> (A)	12.16		11	Tug Boat	Malaysia
<i>Bosphorus Prodigy</i> (A)	12.16	2009.2.3 (49)	11	General Cargo	Antigua & Barbuda

出典 : ハイジャック事案については、” Piracy And Armed Robbery Against Ships: 1 January - 31 December 2008,” ICC International Maritime Bureau, January 16, 2009, pp.55-61 による。解放日については、各種報道による。

注 : 上記表中の (S) はソマリア沖を、(A) はアデン湾でのハイジャック事案を示す。

備考* : *Yenegoa Ocean* については、前掲 IMB2008 年報告書では、該船と乗組員の所在は不明となっている。2009 年 2 月 22 日付の *Ecoterra International* によれば、該船は「アフリカの角」

の先端部に近い、Hawo に放置された状態にあり、乗組員は新鮮な水や食糧などもなく、悲惨な状況にあると見られる。

** : 2009 年 2 月 22 日付の Ecoterra International によれば、該船は、現在全ての錨を失い、Dhanane と Eyl 間を漂流している。

リンク先

AFP	http://www.afp.com/home/
American Forces Press Service	http://www.defenselink.mil/
AP	http://www.ap.org/
Arab News	http://www.arabnews.com/
BBC News	http://www.news.bbc.co.uk/
Channel News Asia	http://www.channelnewsasia.com/
Council of the European Union	http://www.consilium.europa.eu/showPage.aspx?id=1&lang=en
Defense Professionals	http://www.defpro.com/
Ecoterra International	http://www.businesspatrol.com/country-links/ecoterra-international,9870.html
EU Bissiness	http://www.eubusiness.com/
Fairplay Daily News	http://www.mschoa.eu/FairplayStoryDisplay.aspx?articlename=dn0020090306000000
FAS Strategic Security Blog	http://www.fas.org/blog/ssp/
Gulf Daily News	http://www.gulf-daily-news.com/home.asp
Hurriyet Daily News	http://www.hurriyet.com.tr/english/home/
Indian Express	http://www.indianexpress.com/
INQUIRER.net	http://www.inquirer.net/
Maritime Global Net	http://www.mgn.com/
Navy News Stand	http://www.navy.mil/swf/index.asp
Philippine Daily Inquirer	http://www.inquirer.net/
PLA Daily	http://english.chinamil.com.cn/
Press TV	http://www.presstv.ir/
RIA Novosti	http://en.rian.ru/
Saba News	http://news.caribseek.com/Saba.shtml
Shiptalk	http://www.shiptalk.com/
Stars and Stripes, European Edition	http://www.newseum.org/todaysfrontpages/hr.asp?fbVname=USA_SSE&ref_pge=lst
Sunday Mail	http://www.sundaymail.co.uk/
The Chosun Ilbo	http://english.chosun.com/
The Straits Times	http://www.straitstimes.com/
The Times of India	http://timesofindia.indiatimes.com/
The Washington Post	http://www.washingtonpost.com/
Trade Winds	http://www.tradewinds.no/
UPI	http://www.upi.com/
USCG News Service	http://www.uscg.mil/
U.S. Naval Forces Central Command Public Affairs	http://www.cusnc.navy.mil/
Xinhua (新華社)、	http://www.xinhuanet.com/english/

海洋政策研究財団

〒105-0001 東京都港区虎ノ門一丁目15番16号 海洋船舶ビル3F
TEL.03-3502-1828 FAX.03-3502-2033

((財)シップ・アンド・オーシャン財団は、標記名称にて活動しています)